

平成 28 年度重要サンゴ群集モニタリング調査報告書

奄美群島サンゴ礁保全対策協議会

1. 目的

奄美群島のサンゴ礁は、1998 年の大規模なサンゴの白化現象、2000 年から 2008 年のオニヒトデ大発生により大きな攪乱を受けた。しかしながら、白化やオニヒトデにより壊滅したサンゴ礁にもサンゴ幼生が定着し、全体的にサンゴは回復傾向にある。本調査では、奄美群島サンゴ礁保全対策事業モニタリング地点以外の調査地点を選定し、サンゴ群集の現況を把握し保全に資する事を目的とする。

2. 調査海域

喜界島の重要サンゴ群集海域 4 地点および徳之島の重要サンゴ群集海域 6 地点。

なお、2016 年 4 月下旬に徳之島町畦海岸礁池において、大規模なサンゴの白化現象が発生したため、本調査による緊急現況把握調査を実施した。



調査位置図

3. 調査結果

喜界島では、荒木や中里、坂嶺の礁斜面上部でミドリイシ属の回復がみられたが、波当たりが強く小型群体が多い。坂嶺では卓状のクシハダミドリイシ大型群体も散見できたが、高被度範囲の連続性は低い。サンゴ群体は概ね健全な状態が保たれていた。喜界島ではオニヒトデの大発生がみられないことから、台風による破損が大きな攪乱要因と思われる。

徳之島では、2016年4月下旬に畦海岸礁池において大規模な白化現象が発生し、樹枝状ミドリイシ群体が白化後死滅した。母間集落地先の礁池内では、2016年7月に全体の30%程度が白化し、うち約半数が死滅した。母間礁池で生存している樹枝状ミドリイシ群落の保全が重要である。与名間の礁斜面では、大型のミドリイシ群体も生存しており、宿泊学習やシュノーケリングでも利用されている。観光資源だけでなく、環境教育のフィールドとしても重要な海域である。喜念浜海水浴場の礁池内では、サンゴ被度は低く、新規加入のサンゴもほとんどみられなかった。

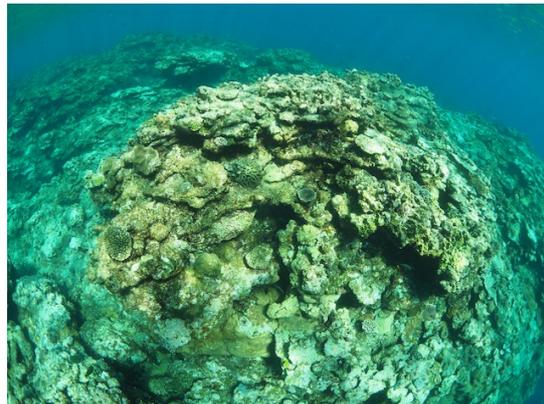
両島とも生サンゴ被度の高い海域は、既にダイビングやシュノーケリング等で活用されており、保全体制やモニタリング調査の拡充が求められる。

			調査地点	被度	特記事項
喜界島	喜界町	1	荒木 (礁斜面)	20%	荒木沖合の巨大ハマサンゴ群体から礁斜面上のサンゴ群集を調査。直径20~30cm程度の指状ミドリイシ群体(コユビミドリイシ、タマユビミドリイシ等)が多く、大型群体は少ない。波当たりが強く強固な骨格の群体が多くみられる。サンゴ群体は大きく成長できにくい生息環境である可能性もある。幼生加入量も少ないと推測される。白化群体やサンゴ食生物による食痕はみられない。 (調査日:2016年7月22日)
		2	荒木集落 (礁斜面)	20%	荒木集落沖合の礁斜面上のサンゴ群集を調査。調査地点1と同様のサンゴ群体が多く、特に大型群体が密集する地点や特異な群体がみられる地点は無かった。直径20~30cm程度の指状ミドリイシ群体が散見できる。幼生加入量も少ないと推測される。白化群体やサンゴ食生物による食痕はみられない。 (調査日:2016年7月22日)
		3	中里 (礁斜面)	25%	中里沖合の礁斜面上のサンゴ群集を調査。直径30cm程度の指状ミドリイシ群体(コユビミドリイシ、オヤユビミドリイシ)や直径40~60cmの卓状ミドリイシ群体(クシハダミドリイシ)が優占する。コユビミドリイシや卓状ミドリイシ属が優占。白化群体やサンゴ食生物による食痕はみられない。 (調査日:2016年7月23日)
		4	坂嶺 (礁斜面)	30%	坂嶺沖合の礁斜面上のサンゴ群集を調査。直径1mを超える大型の卓状ミドリイシ群体(クシハダミドリ

					イシ) が散見できるが、連続性は低い。水路上にウスエダミドリイシの大型群体も確認。局所的に高い被度の部分がみられるが、全体的な被度は30%程度。白化群体やサンゴ食生物による食痕はみられない。 (調査日:2016年7月23日)
徳之島	徳之島町	5	金見崎	10%	畦白化調査の一環で、金見崎礁池のサンゴ群集を調査。間出礁原に閉ざされたやや閉鎖的な礁池で、シコロサンゴ類が優占。白化群体はみられないが、オニヒトデ食痕が多い。樹枝状ミドリイシ類はほとんどみられず、樹枝状のコモンサンゴ類が散見できる。 (調査日:2016年4月29日)
		6	畦	10%	畦礁池で大規模な白化現象が発生し緊急調査。優占する樹枝状ミドリイシ属群体(オトメミドリイシ)と樹枝状コモンサンゴ群体(トゲコモンサンゴ)の殆どが白化し既に死滅していた。一方、同所に生息しているシコロサンゴ類群体(シコロサンゴ、コノハシコ)に白化はみられず、健全な状態であった。白化の原因としては、冬期の低海水温や陸水の影響による塩分濃度の低下等が考えられたが、原因究明には至らなかった。干出礁原に囲まれたやや閉鎖的な礁池であるため、急激な環境変化が長期間継続したことも考えられる。被度は70%から10%に減少。 (調査日:2016年4月29日)
		7	母間 (礁池)	70%	畦白化調査の一環で母間集落地先の礁池内のサンゴ群集を調査。樹枝状ミドリイシ群落が大範囲に広がっており、ごく一部に白化群体がみられたが、サンゴは概ね健全な状態であった。 (調査日:2016年4月29日)
		7	母間 (礁池)	50%	全体の30%が白化し、うち約半数は既に死滅。被度は70%から50%に減少。白化したのは優占する樹枝状ミドリイシ属の群体(オトメミドリイシ)で、シコロサンゴ類群体に白化はみられなかった。特に礁池北側の範囲に白化群体が多くみられた。4月29日、5月22日の調査では、白化群体は殆どみられない状態であったため、高海水温の影響による白化だと思われる。 (調査日:2016年7月21日)
	天城町	8	与名間 (礁池)	30%	(2017年5月20日)与名間ビーチ地先の礁池内のサンゴ群集を調査。間出礁原近くに樹枝状コモンサンゴ群落(エダコモンサンゴ)が広がる。樹枝状ミドリイシ群体はほとんどみられない。白化群体やオニヒトデ食痕は無く、サンゴは概ね健全な状態である。

				<p>礁池内には海藻・海草類も多く繁茂している。 (調査日:2017年5月20日)</p>
		9	与名間 (礁斜面)	<p>40%</p> <p>礁斜面のサンゴ群体を調査。礁池から水路を通り抜けると礁斜面上には大型の卓状ミドリイシ属群体(クシハダ)や大型の樹枝状ミドリイシ群体(トゲスギミドリイシ)が散見できる。白化群体や食痕はみられないが、樹枝状ミドリイシ群体の一部にテルピオス(黒色のカイメン)が被覆していた。 与名間海域は、サンゴの種多様性も高く、宿泊学習やシュノーケリングにも活用されているため、今後も保全すべき海域である。 (調査費:2017年5月20日)</p>
	伊仙町	10	喜念浜 (礁池)	<p>5%未満</p> <p>喜念浜海水浴場の礁池内のサンゴ群集を調査。死滅した樹枝状ミドリイシの骨格が堆積し、シコロサンゴ類や樹枝状コモンサンゴ類の小群落が点在する程度であった。雨天時の調査のため透視度も5m程度で濁りがあった。新規加入のサンゴは、殆どみられない。北側のコバンシャ側の礁池内の方が、サンゴは健全で被度は高く、保全海域としてはコバンシャ礁池が妥当である。 (調査費:2017年5月23日)</p>

1. 荒木礁斜面 (被度 20%)



2. 荒木集落礁斜面 (被度 20%)



3. 中里礁斜面 (被度 25%)



4. 坂嶺礁斜面 (被度 30%)



5. 金見崎礁池 (被度 10%)



6. 畦礁池 (被度 10%) 調査日:2016年4月29日



7. 母間礁池 (被度 70%) 調査日:2016年4月29日



7. 母間礁池 (被度 50%) 調査日:2016年7月21日



8. 与名間礁池 (被度 30%)



9. 与名間礁斜面 (被度 40%)



10. 喜念浜礁池 (被度 5%未滿)

